

会 議 議 事 録 (要旨)

会議等の名称	令和3年度第2回磐田市子ども・子育て会議
担当部課名	こども部こども未来課
開催日時	令和3年12月16日(木) 10:00~11:30
開催場所	磐田市総合健康福祉会館(iプラザ)2階 ふれあい交流室
出席者	<p>出席委員(敬称略9人)</p> <p>漁田 俊子、鈴木 敏弘、松本 加奈子、小笠 元基、望月 沙登美、 江塚 会里、小野田 樹、川島 達也、蓑 江美、梶山 美里</p> <p>事務局(9人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども部 幼稚園保育園課 課長 川島光司、課長補佐 伊藤里香 運営支援G G長 三谷昌史 総務G 主事 市川翔 こども未来課 主幹兼センター長 高杉順也 こども支援G 主幹兼G長 岡田佐栄子、主任 細谷孝行 主事 清水駿介 放課後児童支援室 課長補佐兼室長 内野恭宏 主任 土井雅哉
議 題	<p>(1) 磐田市幼児教育・保育推進計画について</p> <p>(2) ヤングケアラーについて</p>
配付資料等	<p>資料1 磐田市幼児教育・保育推進計画(案)</p> <p>資料2 ヤングケアラーについて</p>

1 開会	
2 議題等	
会長	<p>議題1「磐田市幼児教育・保育推進計画について」です。では、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (幼稚園保育園課)	<p>事務局説明 (磐田市幼児教育・保育推進計画(案)について)</p>
会長	<p>事務局からの説明について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>重点施策の内容からは外れますが、コロナ禍による出席率の変化と保護者からコロナ対応についてでた意見があれば教えていただきたいです。</p> <p>次に計画を読んで思ったことですが、小さい子どもは一人一人違いますから、それぞれの子どもにあった質の高い保育を実施し、さらに保育の要望が多様化していることから、それに対応していくことは大変なことだと思いました。</p> <p>それから小さい子どもは、守られている安心感によって冒険心が生まれてきます。保育士1人で、様々なことをしなければいけない状況から、1人の子どもを大勢の目で見守っていけるように、保育士を確保していただければ、子どもたち、親御さんも安心できる環境になっていくのかなと思います。</p> <p>最後にこれから保育園、幼稚園の認定こども園化を検討していくことでしたけれども、保育園と幼稚園の管轄所管庁が違いますから、そこで統一がとれていないという現場の声を聞いたことがあります。</p> <p>難しいですが、統一のとれた指揮体制がとれたら現場の方たちは戸惑わないのではないかと思います。</p> <p>個人的に思ったことを発言させていただきましたが、この計画はすばらしいものだと思います。</p>
事務局 (幼稚園保育園課)	<p>夏に新型コロナウイルス感染症の状況が悪化したため、対応・対策を行いました。「家庭保育のお願い」期間は、幼稚園は約7割欠席、保育園は約3割欠席でした。「登園自粛」期間につきましては、幼稚園が約10割欠席、保育園が約9割欠席という状況でした。保護者からのご意見については、就労等の理由があり、登園を希望する方は、園</p>

	<p>で預かりますというコメントをしていましたので、ご意見はありませんでした。</p>
会長	<p>ありがとうございました。「私立保育園」はどのような状況でしたか？</p>
委員	<p>「家庭保育のお願い」期間と「登園自粛」期間で差はありましたが、おおよそでいうと、6割7割の方が登園で、ほかの方たちは何かしらの協力をしていただいていた状況です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。「発達支援事業所」はいかがでしたでしょうか。</p>
委員	<p>ほぼ変わりませんでした。親子を受け止めるという姿勢は変えずに支援をおこなっていましたが、体調管理については、かなり丁寧な対応をとらせていただきました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。あと、先ほどご意見いただきました「安心感」について。保育現場が子どもに安心感が与えられると冒険に出て行くという意見がありましたが、それは心理学の理論でも確かめられておりまして、何とか「安心感」を与えて自発的に子どもたちが動けるようになってほしいと保護者の方をはじめとして、皆さんが願っていることだと思います。その「安心感」について、私立保育園ではどのような取り組みがありますか。</p>
委員	<p>「安心感」を与えられるよう保育園で質の向上・ICT化等の業務改善に取り組んでいます。また、コロナの影響で業務を見直した点もあります。例えば今までクラス単位で散歩にいていましたが、コロナ禍になってからは少人数グループで行くようになりました。クラス単位で出かけると、子どもの人数に対して大人の目が少ないため、安全対策で精いっぱいになっていましたが、少人数で行くと職員に余裕が生まれるため、子どもの気づきに 대응することができ、対話が増える等良い点がたくさんありました。</p> <p>また、保育方法についても改善を行っています。今までは給食の時間や昼寝の時間はみんな一緒でしたが、子どもの成長段階や家庭環境に合わせて、時間を変更する「流れる日課」を実施しています。まだ課題は多いですが、挑戦し続け、子どもの「安心感」の安定につなげたいです。</p>

会長	<p>ありがとうございました。コロナ禍をきっかけに悩み、深く考えた末に見直すことが出来た行事等があるというお話を他の保育園からも伺ったことがあります。</p>
委員	<p>待機児童の解消、保育の質の向上、保育士の働き方の改善など実施していくためには、保育士の確保が一番重要だと思います。</p> <p>保育士がいないから困っているという保育園の声を直接聞いていて、この課題は現職の保育士だけでなく、学生が保育現場に就職していかなければ、問題解消に繋がらないと思います。</p> <p>保育士の処遇改善は行われているところですが、保育士の就学支援制度で廃止になってしまうものがあるそうです。就学支援制度を活用し、保育士を目指す学生が多いことから、保育士を目指す学生が減ってしまうと思います。県内には経済的な支援を自治体独自で実施しているところもあります。保育士を確保する方策を具体的に考えていただくことを、ぜひお願いしたいです。</p>
会長	<p>ありがとうございました。保育士確保の方策や就学支援について磐田市で考えていることはありますか。</p>
事務局 (幼稚園保育園課)	<p>就学支援については検討・研究を行っていきます。</p> <p>保育士確保については、保育士の養成校に伺い状況を聞きながら、ご案内やPRをしてまいりました。また、今年はコロナで実施できませんでしたが、去年は、中学校で保育の仕事を紹介・PRさせていただきました。</p>
会長	<p>わかりました。ありがとうございました。</p>
委員	<p>重点施策の項目で、市内全園が参加する連絡会等の充実という内容があり、とても有意義だと思います。しかし、皆さんが一堂に会して意見交換すると時間がかかるなと思ったときに、ICTの導入という言葉も出ていましたので、インターネット上のクラウドをうまく使って、情報を集約できれば効率がよいと思いました。例えば、先ほど出た意見の、保育園でこんな取組をしたら、こんな変化があった等の情報を、集約できるような共有サイトを構築することによって、連絡会の時間が短縮され、各園の情報や取組を一覧化して見ることができ、保護者のニーズもそこから読み取れるのではと思いました。</p> <p>子どもを保育園に通わせていたため、先生の多忙さもわかっていま</p>

会長	<p>すので、先生の負担軽減や質の向上という意味も含めて、意見させていただきました。</p> <p>ありがとうございました。保育現場で出てくるトラブル等を各園でどのように解決しているか、クラウド上で共有できると参考にできるため、磐田市が率先してICT化を進めることができるといいと思います。</p> <p>保護者の方から土曜日保育などについて意見はありますでしょうか。</p>
委員	<p>はい。土曜日保育はありがたい制度だと思います。しかしそれは預ける側の意見で、保育士さんの立場を考えると、大変で負担になると思いました。質の向上というお話もありましたが、たくさん子どもをまとめて保育している保育士さんは忙しいので、余裕や時間がある状態でないと、そこまで考えられないのではないかと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。私からお答えするのもなんですけれども、保育現場に遠慮はしなくても大丈夫ですよ。預けたら大変だろうなって思われる必要は全くないし、保育士は子どもの成長を楽しみにしていますし、安心して預けてください。全ての保育園・幼稚園・こども園・発達支援センターも、そう思っていますので、大丈夫です。質の向上という話ですけれども、保育現場ではこれから具体的に組み込んでいくのだと思います。</p>
委員	<p>個性を大事にと言いながらも、枠にはめる保育・教育が、保育園等でもあると感じていましたので、先ほど保育園の「流れる日課」のお話を聞いた時に、一人一人のニーズに合わせた保育が動き始めたことを、とてもうれしく思いました。</p> <p>また、保護者についてですが、子どもを保育園に預けていることに対して、罪悪感がある方が多いように思います。保育園に子ども預けて、働く、自分の時間を持つことで、子どもに対してイライラせずに、接することができる心の余裕を持つことは必要なことだと思います。私はこの子の母親でよかったという気持ちを構築するため、妊娠期から母親になる準備がきちんと出来れば、保育園に預けることへの罪悪感が減り、迎えの時に「待っていてくれて、ありがとう」という気持ちのお母さんが増えると思います。その結果、保育園の保育の質だけでなく家庭での質も上がるのではないかと感じました。</p>

会長

ありがとうございました。10年以上前までは保育園の仕事って子どもを「預かる」ことが主でしたが、国が方向性を変えまして、「子育て支援」としてお母さんが安心して働くことを保育園でも支援するという形になりました。今後、さらに「子育て支援」という形が浸透していくと思いますので、「待っていてくれてありがとう」と言える保育現場が増えていくと思います。

委員

教員の立場で、先ほどの時間差で給食を食べる話等を聞くと、小学校・中学校は枠にはまっています、そこに生きづらさを感じている子がいるのではないかと思います。

重点施策の3に発達支援についてですが、小学校もかなり特別支援や個に応じた支援を充実させようというのは進んできています。園に在籍している支援が必要な子が小学校に上がっていくときの連携を失敗すると、その子自身や家庭も大変な思いをするし、学校としても対応に苦慮するっていうのは確実にあるケースだと思っていて、園と学校の連携を今まで以上に丁寧に行わないと、難しい問題がでてきてしまうのではないかと思います。

外国籍園児のことも書いてありますが、外国籍の子とどうコミュニケーションをとるか、文書一つにしても磐田市役所の通訳さんに翻訳してもらう必要があるため時間が必要だし、難しい課題だと思っています。人員と設備の両方を充実していく必要があると思います。

会長

ありがとうございました。発達・就学支援についてですが、磐田市は充実していて、一人一人の子どもに向き合い、通常学級なのか、ことばの教室、あるいは支援学級に行くのか、もしくは支援学校に行くのか、とても丁寧にやっている自治体の一つではないかなと思っています。

委員

磐田市は丁寧にやってくださっている印象を受けます。児童発達支援センターとしても就学支援をされていて、年長のお子さんについては、就学について丁寧に話をしています。おっしゃるとおりに、一歩間違えると、連携がうまくいかず、学校生活苦しくなったり、保護者の方も特別支援学校行けばよかったという思いをしったりするのが現状にありますから、より一層、丁寧に対応しています。

委員

私の息子が並行通園という形で支援を受けていました。症状は重くありませんでしたが、本当に手厚く対応していただき、とても感謝しています。

会長	<p>小学校に上がる時に通常級と支援級と両方見学させていただいて、その際には幼稚園の先生と、事業所の先生も一緒に同行をいただきまして、小学校でお話もして、通常級に上がることになりました。しかし、入学式のときに担任の先生が把握されていなかったのがショックでした。連携は是非ともお願いしたいなと思っています。</p> <p>はい、ありがとうございます。連携は難しい点がありますね、小学校も忙しいし、それから保育現場も忙しいので、これこそICT化が図れないかなと思っています。</p> <p>それでは、二つ目の議題「ヤングケアラーについて」事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局 (こども・若者相談センター長)	<p>事務局説明 (資料2：ヤングケアラーについて)</p>
会長	<p>事務局からの説明について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>少子高齢化の問題は、高齢化に目が行きがちですが、ヤングケアラーは少子化と高齢化が結びついている問題だと思います。</p> <p>高齢者の子どもの世代は貴重な労働者ですので、両親が働いている中で、孫の世代に負担が行きます。</p> <p>先ほど数値的な話がありましたが、クラス1人か2人は、いるということですね。そういう見方をするとかなり身近な問題だと思います。子どもにとっては新聞の記事にもあるように相談する相手がいない難しい問題で、今後の課題だと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。他にありますか？</p>
委員	<p>私もヤングケアラーのような事案を人づてに聞いたことがあります。</p> <p>県が行う広い範囲の調査も重要だと思いますが、市内の小学校区など、小さい規模の調査のほうが効果的だと思います。人の家の中って見えないし、民生委員であろうと踏み込めないし、中の人が何かしらの形で訴えないと、わからないので、県の一斉調査のほかに、把握する方法があるといいなと思いました。普段から子どもに関わっている園や学校の先生の情報が大きいのかなと思います。</p>

会長

ありがとうございました。私も同じようなことを考えておりまして、学校や保育現場で担任が把握している情報を具体的に吸い上げて方策を考えたほうが、規模の大きい調査より丁寧に対応できるのではないかなと思いました。そこに、民生委員などの横の繋がりもできていけば、よいと思いますので検討していただければと思います。

事務局

(こども・若者相談センター)

学校現場の調査は、学校教育課が対応していきまして、市内では100人程度いらっしゃるということがわかりました。今までヤングケアラーという見方をしていませんでしたが、目線を変えてネグレクトや虐待などから、その家庭に入り学校と連携を取りながら対応していきます。

会長

学校については対応していただいているとのことですので、年齢を下げながら、把握していけるといいかなと思っています。私もヤングケアラーについて相談を受けたことがあります。ヤングケアラーの掘り起こしは、難しい問題だと思いますが、丁寧に対応していただきたいと思っています。

それでは、時間が参りましたので、議題はこれで終了です。

4 事務連絡

ありがとうございました。事務局から事務連絡を1点申し上げます。次回第3回の会議は3月ごろを予定しております。日程が決まり次第まで御連絡をいたしますので、よろしく願いいたします。

5 閉会

ではこれにて令和3年度第2回磐田市子ども・子育て会議を閉会いたします。ありがとうございました。